

岸城神社



岸城神社の境内地は当時の岸和田城主、小出秀政によって隣
邑に鎮座していた牛頭天王と、岸和田城築造以前に当地で祀
られていた天照大神と八幡神が併せられ成立しました。

その後、天照大神は、天照太神小社として別の境内(後の神明
門付近)に祀られ、牛頭天王と八幡神とは同境内に祀られて御
宮と呼ばれておりました。

岸城神社の例大祭は9月15日です。

また、岸和田だんじり祭の際は14台のだんじりが宮入をし
ます。

だんじり会館



岸和田だんじり会館は、だんじり祭の長い歴史や迫力を目の当たりにできる施設です。館内のイベント広場では実物のだんじりと 27 面のマルチスクリーンによる映像で祭の熱気と迫力をリアルに再現されています。展示されている3台のだんじりは、五軒屋町、紙屋町、沼町で曳行されていました。約300年の歴史と伝統を誇る岸和田だんじり祭は五穀豊穡を祈願したことが始まりだと伝えられています。五穀豊穡とは米や麦、豆、あわやひえなどの5つの穀物がたくさん取れるという意味です。

五風荘



大阪府岸和田市にある近代和風建築と回遊式日本庭園です。岸和田城二の曲輪の「新御茶屋」の跡地に旧寺田財閥当主家別邸として建設されました。1998年に国の登録有形文化財に登録されたものの、指定管理者制度導入を機に、2008年岸和田市指定有形文化財に指定されました（これに伴い国の登録は抹消）。正門は、奈良東大寺塔頭中性院表門を移築したものです。

岸和田城



天正13年（1585）、羽柴秀吉は紀州根来寺討滅後、叔父小出秀政を城主とし、秀政によって城郭整備され、天守閣もこの時に築かれました。小出秀政・吉政・吉英、松平(松井)康重・康映をへて寛永17年（1640）、岡部宣勝が入城(6万石、のち5万3千石)。以後、明治維新まで岡部氏13代が岸和田藩を統治しました。

岡部氏の代々のお墓は門前町の泉光寺にあります。

過去に岸和田城の天守閣は落雷が原因で焼失しています。

二の丸広場



岸和田城の天守閣に繋がる道にある広場です。広場内には当時の二の丸御殿に見立てた大きな建物のトイレや、歴史、文化、観光情報の発信などを行う岸和田市二の丸広場観光交流センターが設置されています。

近年、芝生化され訪れる人の一層の憩いの場所となっており、春には定期的に様々なイベントが行われます。

以前はこの場所にサルがいました。